

原油市場展望

2021年12月



調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

◆本資料は2021年11月29日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆ご照会先：調査部 副主任研究員 松田健太郎 (Tel:080-4176-4439 Mail:matsuda.kentaro@jri.co.jp)

- ◆日本総研・調査部の「経済・政策情報メールマガジン」は下記URLから登録できます(右側QRコードからもアクセスできます)。新着レポートの概要のほか、最新の経済指標・イベントなどに対するコメントや研究員のコラムなどを随時お届け致します。
<https://www.jri.co.jp/company/business/research/mailmagazine/form/>

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

<メルマガ> <Twitter>



原油価格見通し：高値圏での推移が持続

◆現状：70ドル台後半を中心に推移

11月のWTI原油先物価格は、月初に、OPECプラスが増産ペースの拡大を見送ったものの、米国が戦略備蓄を放出するとの観測が浮上するなか、強弱感が対立し80ドル台前半を中心に方向感を欠く展開。

中旬以降は米原油在庫の増加が市場予想を上回ったことなどから70ドル台半ばへ下落。

その後は、戦略備蓄の放出規模が市場の想定を下回り、80ドル付近まで反発したものの、南アフリカなどでの新型コロナ変異株の感染拡大を受けたリスク回避の動きから70ドル前後へ急落。

◆投機筋の買い越し幅は小幅拡大

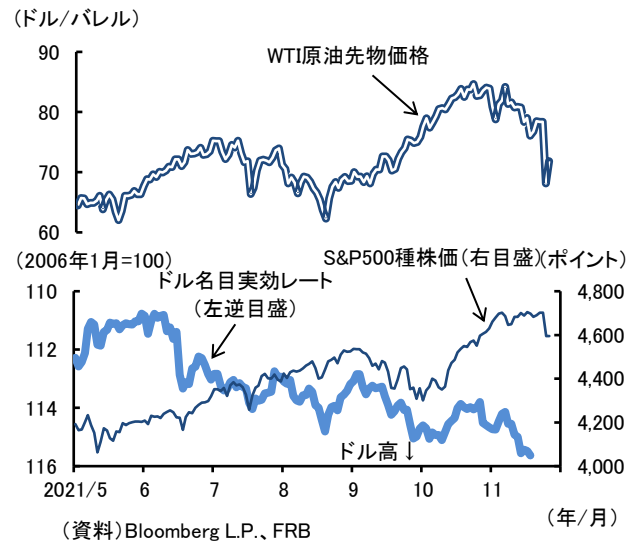
投機筋の原油先物買い越し幅は、中旬にかけて小幅拡大。買い、売りポジションとも減少したものの、原油需給のひっ迫感が根強いなか、売りポジションが買いを上回って縮小。

◆見通し：当面高値圏での推移

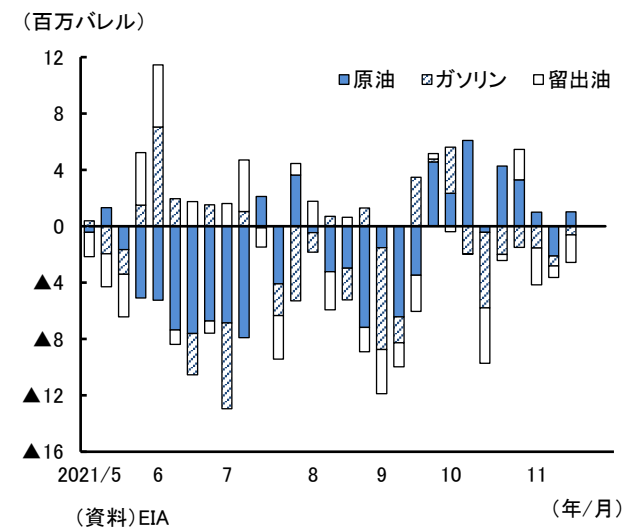
先行きを展望すると、新たな変異株の感染拡大による先行き不透明感が強まっているものの、原油価格は高めの水準が続く見込み。原油供給の拡大が緩やかにとどまる一方、世界的なエネルギー需要が旺盛である結果、需給のひっ迫が意識されやすい展開が続くと予想。

もっとも、来春以降、OPECプラスや米シェールオイルによる供給が拡大するほか、暖房需要が一巡することなどを背景に、需給のひっ迫感が和らぐにつれて、原油価格は徐々に水準を切り下げる見込み。

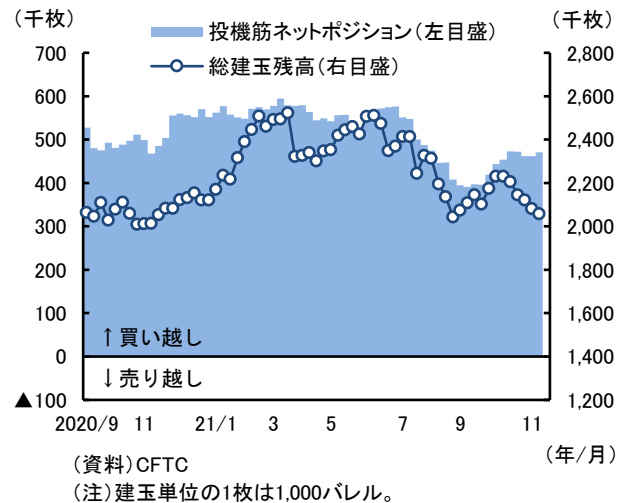
原油価格と株価・為替レート



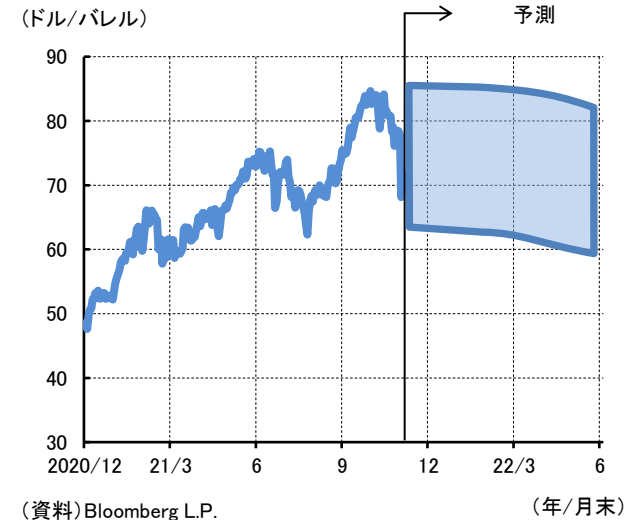
米国の原油・石油製品在庫(前週差)



WTI原油先物ポジション



WTI原油先物価格見通し



トピック：OPECプラスは増産のペースダウンも視野

原油

◆戦略備蓄放出の影響は小

原油需給のひっ迫に伴い価格高騰への懸念が強まるなか、バイデン米大統領主導で日本など数カ国が協調的な戦略備蓄の放出を決定。米国では、6億バレル近い戦略備蓄のうち、議会承認済みの1,800万バレルを含む5,000万バレルを段階的に放出する予定。

もっとも、戦略備蓄の放出が、原油価格を持続的に下落させる公算は小。備蓄放出は、一時的に原油需給のひっ迫感を和らげても、備蓄量は各国の一日当たりの消費量見合いでも小規模にとどまることから、影響は限られる公算。

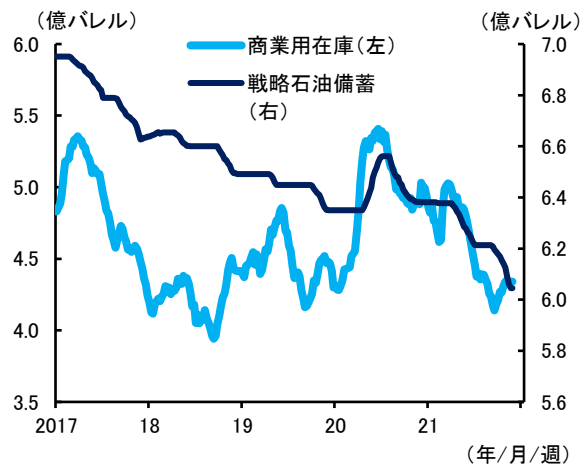
◆増産ペース調整も視野

こうしたなか、OPECプラスは増産に対して慎重な姿勢を維持する見込み。8月から12月にかけては日量40万バレルの増産を維持してきたものの、以下2点から増産ペースの拡大を一時的に停止する可能性。

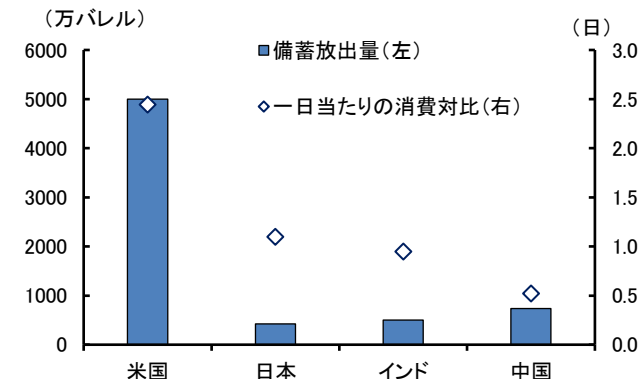
第1に、供給超過への懸念。先行きの需要下振れを考慮しなくても、OPECプラスがこれまでと同様のペースで増産した場合、来春以降需給バランスは大幅な供給超過に。

第2に、需要を巡る不透明感。今秋以降、OPECの需要見通しは21年、22年とも下方修正が続いているほか、足許では新たな新型コロナ変異株の感染拡大リスクが高まっており、需要下振れ懸念が台頭。

米国の原油在庫と戦略備蓄



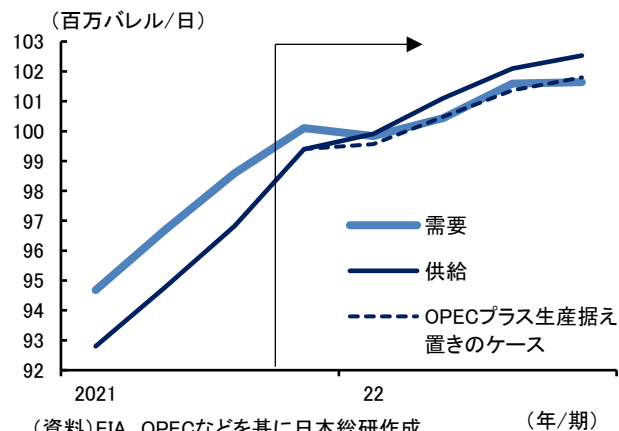
各国の戦略石油備蓄放出規模



(資料) Office of Fossil Energy and Carbon Management, BP, 各種報道を基に日本総研作成

(注) 英国は、民間企業による150万バレルまでの自発的な放出を許容、韓国については具体的な数値の発表なし。

世界の原油供給と需要



(注) OPECプラス生産据え置きケースは、生産量を12月横ばいにした場合。

OPECの世界の原油需要見通し修正状況



(注) 2022年の見通しは、21年7月月報より公表開始。